

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)

電話 66-1311
FAX 66-1314

かさおか



可愛らしい雛人形
(3月3日 大教会神殿南側花展示場で撮影)

教祖130年祭に向かって

三年千日 さあ！ おたすけ
祈る 動く つなぐ

立教177年
3月号



声高らかに神名流し

委員・直轄委員部長

研修会開催

2・22

婦人会

婦人会笠岡支部(上原きよ枝支部長)では2月22日、大教会で委員・委員部長研修会を開催、33人が参加した。

上原同支部長は「年祭活動2年目を迎え、昨年1年を振り返るとともに、心定めに向かつて歩み出して欲しい。今年は

婦人会本部で委員部長講習会が開かれるが、受講する方もしっかり理作り、心作りをした上でおちばの理を受け取って、心に成る程と思えるようになって頂きたい」とあいさつ。

引き続き「私の年祭活動」をテーマに2人が感話をした。

午後からは参加者を6班に分け。支部長あいさつを聞いて感じたこと。年祭活動の取り組み状況―などについて話し合った。

その後、ひのきしん、茶話会が行われ、今より一歩でも成人して、まことのよふぼくととなり、年祭活動を進めて行くよう誓い合い閉会した。

教会長講習会開催

2・26―27 詰所で

布教部

布教部(田中隆之部長)では本部2月月次祭終了後の26、27の両日詰所で立教177年教会長講習会を開催、104人(受付数)が受講した。

テーマは「地域社会における教会の重

要性」。そして具体的な「現代のおたすけと教会のあり方」。教会の竜頭である教会長が、たすけ道場である教会の重要性を地域の中で再確認しようと開かれたもの。

開講に先立ち大教会長様は「講習会で得たことを、今後の年祭活動により生かしていくことが大切」と話された。

講習会での「講話のテーマ・演題・講師」は次の通り。

○「おさづけの取り次ぎと教祖存命」
海外で見た不思議

・中山 仁 氏

○「現代のにをいがけ・おたすけの具体例」
「山名大部属・明陽分所属・布教所長」

「現代のにをいがけ・おたすけを指して」
「地域に溶け込むにをいがけ・おたすけを目指して」

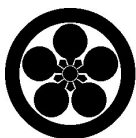
・郡川 善 嗣 氏

○「現代のおたすけと教会のあり方」
「現代のニーズに応えるおたすけ、付加価値としてのひのきしん」

・白木原 嘉 彦 氏

(本部准員・本芝大教会長)
また懇親会を兼ねた「自教会での取り

<実行目標>人のたすかりを願ひましよう



おたすけ・お願いカード 集計：30,995枚

平成26年1月21日～2月20日

累計：190,529枚





メキシコでの不思議な体験について話す中山氏

組み」についての情報交換も行われた。田林久嗣東悠分教会長は「おたすけ・お願いカード」。上原繁次陶山分教会長は「たすけの旬、たすかりの旬」について発表、山田睦浩甲井分教会長は「地域の役職を担う・地域社会における取り組み」について同布教部員からのインタビューに答えた。



合奏練習に励む少年会員

雅鶯会では2月23日に恒例の「雅楽勉強会」を開催しました。今回は小人数の参加者でしたが、より密度の高い勉強会となりました。朝9時半から管別練習、昼食をはさんで昼から合奏練習と初心者には少々ハードでしたが、よく辛抱して熱心に取り組んだので最後のお供え演奏

雅楽勉強会開催

2・23

雅鶯会

2月26日喜びの登殿参列をさせて頂きました。今月は笠岡大教会から15人の参列です。冷え込みも、雨、雪なく気持ちの良い一日となりました。詰所遙拝場で記念写真とマイクロボスで送って頂き、私は11班(全体は33班に分かれました)で、東礼拝場右側の結界内に参列いたしました。近々にかぐらづとめを拝させて頂き心から有り難いことでした。後ろの礼拝場を振り向きますといっぱいの参拝者で「今、すばらしい経験をしているんだなあ」との思いがこみ上げてまいりました。神殿講話を聞かせて頂き、教祖殿御用場で表統領先生のお話を聞き、御供を頂き重ねて有り難いことでした。

有り難い「登殿参列」

明石市分教会長 杉原博之



では音取りに続いて、平調の越殿楽を正に雅の楽を演奏してくださいました。受講のみなさんありがとうございました。

(雅鶯会 楽長 中島誠治)

修養科終了の聲



修養科に入って本当に良かった

呉福分教会 井上一三

私は今日までよふぼくとしておつとめやおさづけの取り次ぎ、ひのきしん等、親神様、教祖の思召しに沿う事は何一つして来なかったのですが、それでも大きな身上も無く仕事を勤めきれたのは、信仰の三代目で御守護を頂けたのだと思ひ、これからは少しでもお道の御用をさせて頂ける様、一から学ぶ為修養科に志願しました。

修養なら「天理の冬は寒いよ」と言われる冬にしますと言ってきたものの、早朝の神殿内や回廊の冷たいこと、指先は悴むし靴下は二枚履く様な状況でしたが、環境には順応するもので、一ヶ月も経ると苦にならなくなりです。それよりも、正月を迎える詰所での餅つき(一枚五升のお供え餅二十数枚には驚きました)、又、神殿での餅切りやおせちの餅焼きと体験出来て冬の修養科も良いものだと思う様になりました。

修養科生は二人でしたので詰所でひのきしんは

十分な事は出来ませんでした。食事の準備や後片付け、風呂場やトイレ掃除と教養掛の先生方と共に務めさせて頂き御苦勞をお掛けしましたが、私たち修養科生にとっては先生方を身近に感じる事が出来ました。てをどりの修練では先生と一対一で教わった様なものですが、なかなか覚えられず少し焦りました。

修養科では教典や教祖伝の授業で親神様の思召しや教祖のひながたを詳しく教えて頂きました。

日々の通り方として常に陽気ぐらしと人だすけの意義を思い起こし、つとめやおさづけを实践する様心掛け、ほこりを積みぬ事それでも積もるからはらう様教えて頂きました。今後は少しでも成人し、教会の御用を勇んで務めさせて頂こうと思つています。教養掛の先生方、詰所のみな様、有難う御座いました。

修養科を終えて

鶴眞分教会 水森 美由希

修養科一ヶ月が過ぎた時の事です。朝五時から食堂でひのきしんをしていると、朝早い中にもかかわらず理の親の先生が訪ねて下さいました。先生も私も互いに顔を見た途端、嬉しさと感激で二人方々自然と涙があふれ手をとりあいました。その姿を見ていた二ヶ月目の教養掛の先生が、

朝づとめの後の後のお話して「今朝は本当に素敵なのを見させて頂きました。理の親と信者との関係というものは、こういうものでないといけないんだと感じました」と話して下さり、私は教養の先生がそんな風に思つて言つて下さったことが嬉しくまた涙しました。私はこの理の親である先生と出会えたことは、誰よりも有難く恵まれていたことなんだと気付きました。

事情のある家庭の中、この先生と出会い、主人との縁を結んで頂き、何かあるたび親以上に親身に事情や身上を助けて頂きました。そして何より信仰の大切さを教えて頂いたのです。

また修養科での出会いや詰所での生活の中で自分を見つめ直し至らぬ所を反省し、神様の御心に感謝させて頂き、信仰できることの喜びを改めて気付くことができました。

この三ヶ月は過ぎてしまった今、本当にあつという間でしたが、ここで学び気付いた事はこれから後、私が生きていく上での宝物として心に刻み、夫婦共々信仰できることに感謝し、親として母として、そして妻として少しづつでも成人し家庭の土台となり糧となれるよう通らせて頂きます。

三ヶ月間、子供を連れただ中、心を配って頂いた教養の先生や詰所の方々、同じ修養科生の井上さん、三ヶ月間、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

青年会有志ひのきしん隊 1周年



昨年2月より実施している青年会有志ひのきしん隊。毎月活動し、開始より1年がたった。これまで、除草や整地、駐車場の整備、家財道具の解体など様々な活動を行ってきた。(11月-大教会教職舎裏の木の伐採。12月-大教会年末大掃除。1・2月-府中市分教会の墓地の整備)

青年会では、今後も引き続き活動を継続。ひのきしんの依頼は、大教会上原一始まで。また、ひのきしん者も同時に募集している。

こころの詩

笠岡に繋がる教友の方が選ばれ掲載されていましてので転載させて頂きます。おめでとうございます。

▼天理教道友社発行『天理時報』より転載

▽2月16日付「時報歌壇」

・海松ヶ岡分教会 藤井光子さん

寒き日に並んで行儀良く

止まるこの日だまりのふくら雀はすずめ

・福満分教会前会長夫人 福島悦子さん

内海の穏しき春の陽はさしぬ

千切り大根千す媪の背におんなせな

・海松ヶ岡分教会 池田広子さん

草を焼く煙は白くたなびきて

弧を描きゆく千拓地の空

▽3月2日付「時報俳壇」

・芦品分教会教人 金谷眞佐代さん

白梅の香りを添えて手配りす

▼養徳社発行『陽気』誌三月号、「道柳」より転載。今回の課題は「人」。

▽準秀詠

・東悠分教会前会長夫人 田林美智子さん

人さまの難渋われにおきかえて

▼表紙写真

(吉岡輝昭かさおか編集部員)

<布教部>

○全教一斉ひのきしんデー

期日 4月29日(火)

○別席・ひのきしん団参

期日 5月25日(日)

<育成部>

○よふぼく勉強会の予定

テーマ 担当者

7月 親孝心 高木孝子 (湯田原分教会長夫人)

8月 八つの埃 吉岡貞彦 (芦田川分教会長)

<詰所掛>

○修養科費用の改定

・1ヶ月につき1,000円増しになりました。詳細は、詰所にお問い合わせください。

<青年会>

○おやさとふしん青年会ひのきしん隊

期間 6月1日(日)～24日(火)

入隊資格 15歳以上の男子

宿舎 第百母屋

<少年会>

○少年会実技勉強会

日程及び内容

4月26日(土) ・遊べるおりがみ

5月26日(月) ・鳴物練習に役立つリトミック

6月26日(木) ・「こどもおぢばがえり」で使えるゲーム

時間 午後1時～2時30分

会場 少年会本部(真南棟4階)

参加費 200円

対象 育成会員

服装 動きやすい服装

※詳しくは少年会本部講習課までお問い合わせ下さい。

<学生担当委員会>

○おぢば管内新入生歓迎会

期日 4月27日(日)

○学生生徒修養会高校の部 スタッフ募集

期間 8月7日(木)～15日(金)

<その他>

○大教会長杯親睦スポーツ大会

期日 5月4日(日)

立教177年 定期巡教表

教会名	巡教月日	巡教員	教会名	巡教月日	巡教員	教会名	巡教月日	巡教員
廣町	2月13日	中村 剛	御野	2月 8日	中村 邦義	大江橋	2月 5日	吉岡誠一郎
福廣	2月 7日	門脇元教	香地華	3月 9日	大教会奥様	品治	3月 7日	上原繁道
福勇	2月11日	吉岡 壽	真金	2月11日	岡崎和夫	久福	3月 8日	上原志郎
福芦	3月 9日	中島誠治	稻倉	2月13日	大教会奥様	久津	3月 9日	上原志郎
福満	2月 8日	武内正美	稻瀬	3月 5日	中島誠治	呉福	2月 5日	武内正美
福岩	3月12日	上原繁道	稻富士	2月15日	岡崎和夫	鶴南	3月 8日	河原節喜
西村	3月10日	吉岡 壽	稻讚	3月10日	岡崎和夫	鶴真	3月10日	上原繁道
福年	2月 7日	大教会奥様	門司港	2月12日	岡本久善	川島郷	2月10日	中島誠治
引野	3月 6日	武内正美	大恵山	2月12日	河原節喜	作備	3月 6日	中村 剛
福昭	2月11日	佐藤道孝	東水島	2月10日	門脇元教	輝華	3月13日	杉原博之
福春	3月 5日	笹尾正治	高児島	3月 5日	中村 剛	錦ヶ原	2月 3日	岡本久善
福中	3月12日	上原志郎	高丸	2月 6日	佐藤道孝	行藤	2月11日	中島誠治
福富士	2月10日	中村邦義	出雲	2月11日	今川昌彦	真府	2月 9日	門脇元教
福東	2月 9日	笹尾正治	瑞雲	2月 6日	杉原博之	吉舎	3月 4日	大教会奥様
東福山	2月 6日	大教会長様	海潮川	2月 8日	杉原博之	清嶽	2月 5日	大教会長様
福南	2月13日	大教会長様	錦洋	2月14日	上原繁道	上小島	2月10日	佐藤道孝
福順	2月11日	中村 剛	米府	2月15日	上原繁道	木津和	2月 6日	門脇元教
福節	3月 8日	中村邦義	弓ヶ濱	3月 8日	田中隆之	國須	2月 7日	上原志郎
福備	3月 3日	吉岡誠一郎	西伯	3月 9日	田中隆之	上吉野	3月12日	三島 涉
福輝	3月13日	河原節喜	米美	3月 5日	吉岡 壽	上備	3月 8日	岡崎真一
坪生	3月 5日	大教会長様	伯仙	3月10日	田中隆之	河佐	3月 4日	武内正美
八尋	2月10日	大教会長様	照雲	3月 6日	吉岡 壽	上川邊	2月12日	今川昌彦
深安	3月 6日	上原志郎	松都	2月 7日	杉原博之	甲井	3月 6日	田中隆之
笠尋	3月 3日	三島 涉	新輝豊	2月 3日	吉岡誠一郎	上父	2月 7日	大教会長様
芦品	3月13日	田中隆之	亀田山	2月12日	上原志郎	阿木行	3月 2日	吉岡 壽
安那	2月 8日	吉岡誠一郎	出雲川津	2月10日	今川昌彦	宇津戸	3月 5日	佐藤道孝
芦田川	2月 3日	大教会長様	天場山	2月 8日	岡崎真一	河面	3月 8日	岡崎和夫
三郡	3月10日	岡崎真一	簸ノ川	2月10日	岡崎真一	府鮮	2月13日	佐藤道孝
芦常	3月 5日	岡本久善	多古浦	2月13日	上原繁道	府世原	3月12日	岡本久善
芦加茂	3月 6日	中島誠治	瑞北	2月 9日	岡崎真一	神驛	3月 5日	大教会奥様
惠陽	3月14日	大教会長様	雲東	2月11日	上原志郎	神免	3月 8日	大教会奥様
陽實	2月12日	中村邦義	呉中	2月 8日	岡本久善	葦沼	2月 7日	三島 涉

二月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様には一列子供の陽気ぐらしを楽しみに 身体の自由をはじめ火水風等万一切の御守護を下さっております 加えて「どのような事をするのもみな月日 しんぢつよりのたすけ一ぢよ」と身上や事情にしろしを見せて心得違いを教えて下さり 陽気ぐらしへとお導き下さいます事は誠に有難く勿体ない極みでございます 私共は成つて来る理にとまどいを覚えつつも「かしのかりもの」や「十全の守護」の御教え 又「八つのほこり」の説き分けに心を正し 陽気ぐらし実現を目指し 日々は朝夕に御礼申し上げつつひのきしんにはげみ たすけ一条の御用の上に勤め励まして頂いております 取り分け今は教祖百三十年祭に向け三年千日と仕切つての二年目の成人の歩みを進めさせて頂くべく 積み重ねの年として成人目標を掲げておたすけの実践に邁進させて頂いております

その中にも今日の吉日は二月の月次祭を執り行う日柄でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同 喜び心 たすけ心も一人に 明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめさせて頂きます 御前には寒さ厳しき中も厭わず遠近を問わず寄り集いました道の子供達が三万九百九十五枚のおたすけお願ひカードと共に たすけ心一杯に声高らかにお歌を唱和する真実の状を御覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて本日は本部たすけ委員会委員の東井光則本部長先生にお越し頂き年祭活動推進講話を拝聴させて頂きます 時句に当たつてのおちぼの思いをしつかりと受けとめさせて頂き 成人の歩みへと繋げさせて頂く所存でございます 又今月二十六 二十七日と教会長講習会を開催させて頂き 道の竜頭との意識を高め自ら成人の歩みを進めるのみならず 竜頭の役割を果たすべく教会に繋がるよふぼく信者と共に成人の歩みを進めることを確認し合いたいと存じます 更には又来月から始まる「ようぼくの集い」に全よふぼく信者の参加を目指して 教会長は元よりよふぼく信者お互いに声を掛け合い誘い合せて参加させて頂き より成人の歩みを早めさせて頂く所存でございます

何卒親神様には 親に喜んで頂きたい一心で三年千日と仕切つてたすけ一条に邁進する皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして 身上事情をはじめ万たすけの上に自由の御守護を賜り 一列子供が親神様の御守護の世界でありたすけたい一条の親心一杯の御守護である事に気付かせて頂いて 御恩報じ一筋に万互いにたすけ合う陽気づくめの世の状に一日も早くお導き下さいますよう 一同と共に慎んでお願い申し上げます

立教百七十七年 二月月次祭 祭典役割表

胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	役割			区分						
									てをどり	おつとめ	地方							
上原順子	今川佐智子	虫明好美	岡崎真一	森本忠平	笹尾正治	浅野明教	河原節喜	内海史郎	門脇郁子	田中ますみ	大教会奥様	上原繁道	岡本久善	大教会長様	岡崎輝彦	上原志郎	佐藤道孝	坐り勤
内海安子	武内正美	上原順子	赤木素志	武内清明	森本忠善	山野弘実	佐藤真孝	吉岡誠一郎	谷内美知子	岡崎豊子	森本富美子	今川昌彦	杉原博之	岡崎和夫	渡邊隆夫	門脇元教	中村剛	前半
三島照美	横山小智榮	笹尾一美	虫明立生	高木昭祥	田林久嗣	中村道徳	山田敏教	上原浩	中村初美	高木孝子	門脇加津	三島誠治	中島誠	中村邦義	横山逸郎	岡崎真一	吉岡壽	後半

講話	東井光則先生	祭主	大教会長様
	今川昌彦		門脇元教
四月講話	世話人先生	賛者	山田敏教
			浅野明教
		指図方	佐藤道孝



第三回 登殿参列

◎第3回

立教176年12月26日
上原繁次(陶山)、佐藤真孝(芳)

登殿参列



第四回 登殿参列

井)、岡崎輝彦(呉照)、田林久嗣(東悠)、山野弘実(上下)、鳥谷秀夫(出雲)、松本幹則(錦洋)、三代幸(米府)、高橋德行(亀田山)、津森朋之(簸ノ川)、余村

健(多古浦)、福島泰道(瑞北)、
高田一弘(真府)、時宗一実(吉
舎)、田中一矩(上小島)、丸山
正人(木津和)。

◎第4回 立教177年2月26日

森本忠善(海松ヶ岡)、杉原博之
(明石市)、豊田宏哉(府中市)、
横山逸郎(東城)、福島大介(福
満)、三阪泰人(福岩)、平盛秀
年(福昭)、藤井正仁(福富士)、
藤井保人(福東)、田中亜輝(福
輝)、三宅俊正(作備)、池平武
司(錦ヶ原)、田原節夫(阿木行)、
川上正毅(河面)、奥忠郎(府
鮮)。

大教会だより

◎第八七二期修養科

自 立教176年12月1日
至 立教177年2月27日

*教 養 掛

三ヶ月間 田 中 隆 之
(大教会役員)

一ヶ月目 福島 大介
(福満分教会長)
二ヶ月目 山 田 敏 教
(大教会准役員
甲井分教会前長)

三ヶ月目 渡 邊 孝 信
(神驛分教会長)

*修了者

呉 福 井 上 一 三
鶴 眞 水 森 美 由 希

◎教人資格講習会(前期)修了者

立教177年3月3日終講
國 須 原 田 良 平
國 須 原 田 恵 理

◎本部食堂ひのきしん

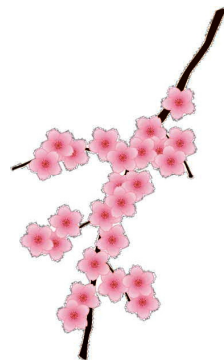
自 立教177年2月16日
至 立教177年2月28日
芳 井 山 口 晃 治

※お詫びと訂正

本年2月21日発行の『かさおか
第53巻第2号』10ページ「心の詩」
の記事中「弥高山分教会教人 藤本

節子さん」としておりましたが、「弥
高山分教会よふぼく 藤本節子さ
ん」の誤りでした。

読者の皆様ならびに関係者の皆様
にご迷惑をお掛けしましたことをお
詫びするとともに、ここに訂正させ
て頂きます。



「ようぼくの集い」案内訪問

2月4日支部例会に於いて、支部
管内の全よふぼく家庭に集いの案内
の徹底を図る上から、我が支部でも
誰が何処の地区を担当するのか、例
会后に話し合わせそれぞれの部所が
決められた。その住所が違って
場合などで連絡が取れない時には、
3月の例会日に行けなかったところ
の名簿を持ち寄り、支部で再度確認

を取り訪問するか郵送するか手段を
講じる事にしていた。私は担当地区
の訪問にすぐに出る事が出来ず、2
月も1週間を残す頃からやっと取り
掛かる事ができ、自動車のナビを
使って1軒1軒限なく案内に回っ
た。ほとんどのようぼく家庭は上級
を通してその趣旨を詳しく聞いてお
られたので、気持ち良く対応して下
さり回るほどにこちらも嬉しく勇み
心を頂きながらの訪問であった。し
かしある1軒のお宅を訪ねたところ、
30歳前くらいの身上を持たれた
女性が出て来られ「天理教ですが…」
と話し始めると女性は顔を強張らせ
一言、「帰れ」…。今まで留守宅以
外は順調に話しを聞いて下さってい
たが、内心ではやっと本命に出会え
たという本来のにいがけに戻った
という気持ちだった。それぞれにい
ろんな形でお道の話しを聞かれ、ど
の様な今に繋がっているかは分から
ないが系統・組織に拘らず心たすか
る信仰に今一度自分の胸に問いかけ
た一よふぼく家庭への訪問であつ
た。(む)